とちぎ森林創生ビジョン

～とちぎの元気な森を100年先の未来へ～

実施結果について

（令和５年度）

計画期間：令和３(2021)年度～令和７(2025)年度

令和６(2024)年11月

栃木県環境森林部

目次

1　総合評価 ・・・

1　総合評価

・令和５(2023)年度においては、17の指標のうち、
　年度目標を達成（◎）　７指標
　年度目標の80%以上の進捗（○）　６指標
　年度目標の50%以上80%未満の進捗（△）　３指標
　年度目標の50%未満の進捗（▲）　１指標

	施策名	指標数	◎	○	△	▲
重点施策１	林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業”の実現～	7	2 (2)	3 (3)	2 (2)	0 (0)
重点施策２	森林の公益的機能の高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～	6	3 (3)	2 (1)	0 (1)	1 (1)
重点施策３	森林･林業･木材産業を支える地域･人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	2	1 (1)	0 (1)	1 (0)	0 (0)
共通施策	未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～	2	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
計		17	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)

※（　）は、昨年度の数値

2　各指標の状況

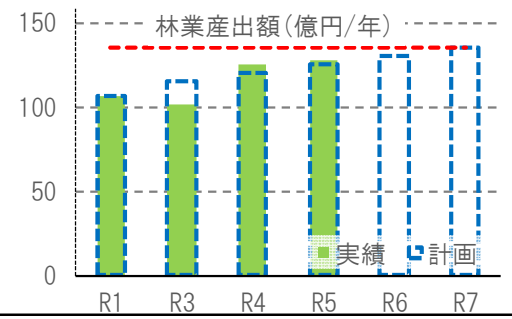
重点施策１　林業・木材産業の産業力強化　～“稼げる林業”の実現～

	指標	現状値 R1(2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率 R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	目標値 R7(2025)
1	林業産出額 (億円/年)	107.1 (H30(2018))	101.3	125.0	127.4			135 (R6(2024))
			115	120	125	130	135	
			88% ○	104% ◎	102% ◎			
2	素材生産量 (万㎥/年)	45.3	55.5	49.9	54.5			70
			54	58	62	66	70	
			103% ◎	86% ○	88% ○			
3	主伐面積 (ha/年)	302	513	449	480			700
			500	575	650	680	700	
			103% ◎	78% △	74% △			

グラフ
※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記

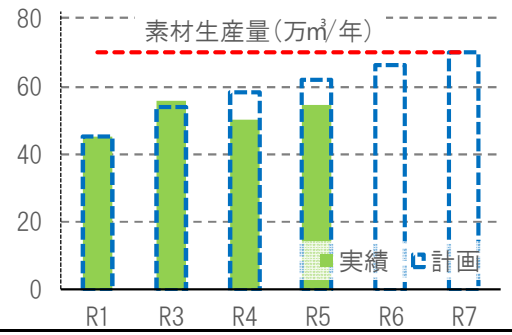
1 林業産出額

ウッドショック（Ｒ３年春～Ｒ４年末）や為替変動（円安）等の影響で製材等の輸入量が減少したことで、国産材への代替需要が生じたことから、製材用素材等の価格上昇が続き、産出額は増加した。



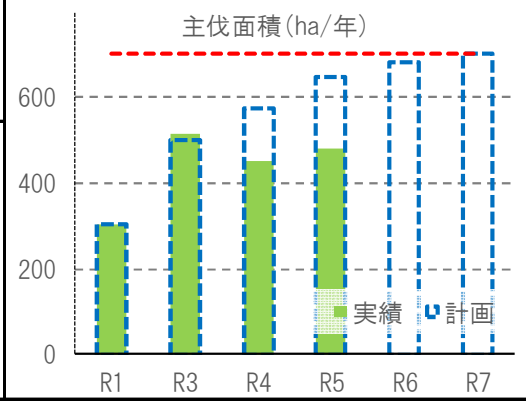
2 素材生産量

・前年度より改善したものの、目標には届かなかった。
・循環型林業を確立させるため、主伐（皆伐）と造林（植栽・下刈等）を一体的に進めるとともに、実効性の高い森林経営計画により素材生産量を確保していく。

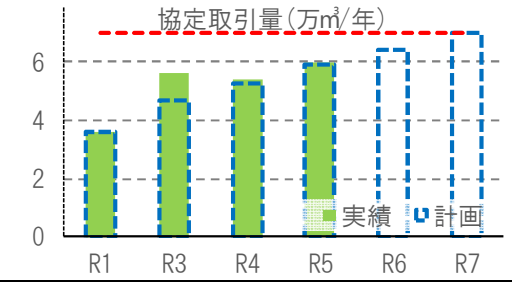
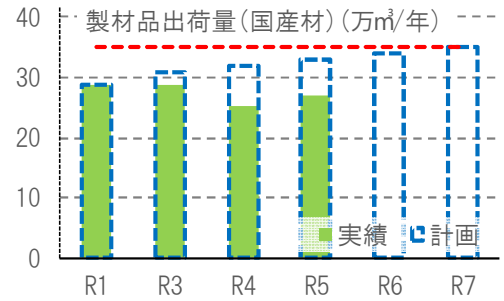
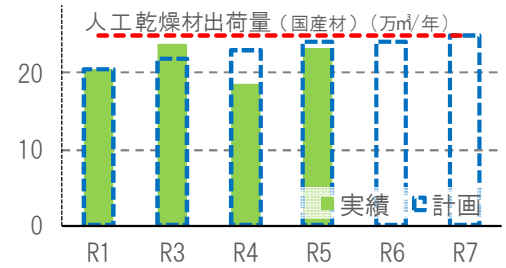
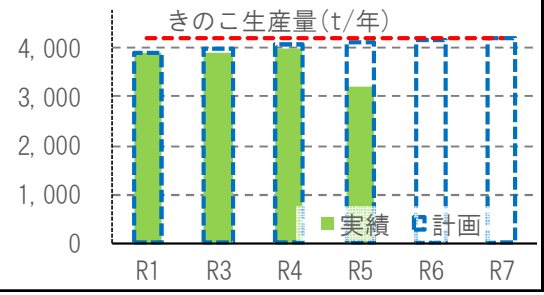


3 主伐面積

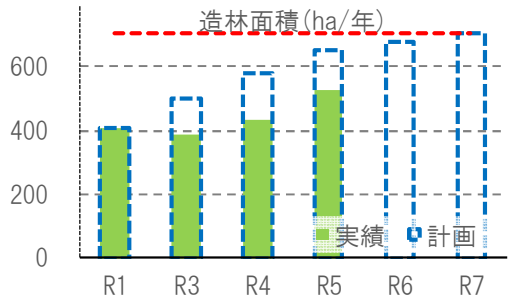
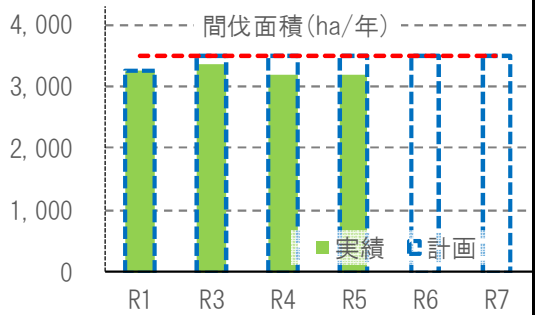
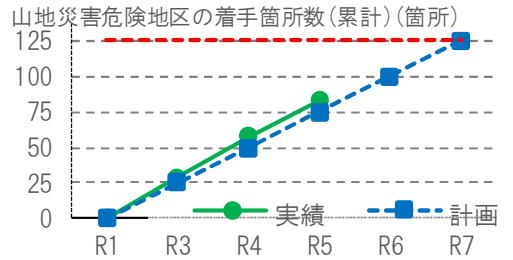
・前年度より改善したものの、目標には届かなかった。
・皆伐へのモデル的なシフト（Ｈ26～）から、主伐面積は年々増加し、約500haで推移している。
・ウッドショック時の外材供給体制への不安が残る今が、国産材の利用率を上げていく最大のチャンスと捉え、主伐（皆伐）による森林資源の循環利用を進めていく。



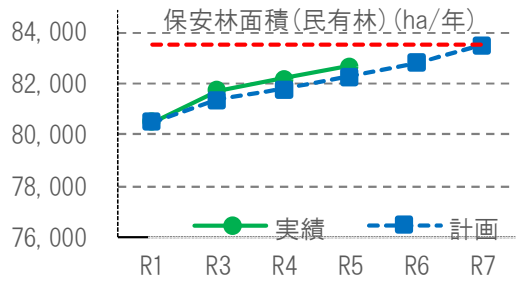
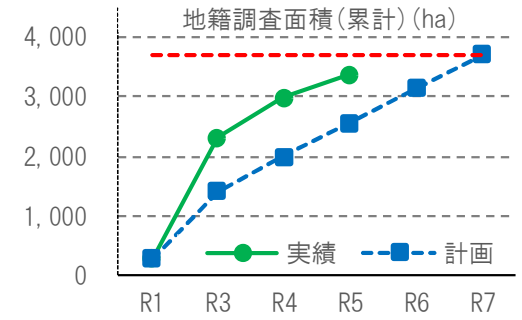
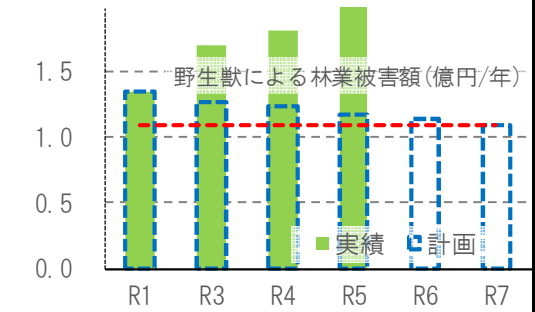
2　各指標の状況

	指標	現状値 R1(2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率 R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	目標値 R7(2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
4	協定取引量 (万㎥/年)	3.6	5.6	5.4	6.0			7	
			4.7	5.3	5.9	6.4	7.0		
			119% ◎	102% ◎	102% ◎				
	ウッドショック等の今までに類をみない多大な影響を経験したことから、リスクマネジメントとして、特に川上・川中の間で、協力体制の強化が図られ、協定取引量が増加した。								
5	製材品出荷量（国産材） (万㎥/年)	28.7	28.8	25.3	26.9			35	
			31	32	33	34	35		
			93% ○	79% △	82% ○				
	・前年度より改善したものの、目標には届かなかった。 ・本県の製材品生産のポテンシャルとしては余力を残しているため、原材料となる素材丸太の供給体制を強化していくことが重要である。								
6	人工乾燥材出荷量（国産材） (万㎥/年)	20.5	23.7	18.5	23.2			25	
			22	23	24	24	25		
			108% ◎	80% ○	97% ○				
	・目標はほぼ達成している。 ・製材品の生産が回復し、乾燥材生産の割合が増加したことに伴い、本県の特徴である人工乾燥材の生産・出荷も連動し増加した。								
7	きのこ生産量 (t/年)	3,905	3,909	3,969	3,193			4,200	
			4,003	4,053	4,102	4,151	4,200		
			98% ○	98% ○	78% △				
	食品表示基準の改正により、国産として扱われなくなったしいたけ生産者の中に一部、生産を休止する者が現れたことから、生産量が減少した。								

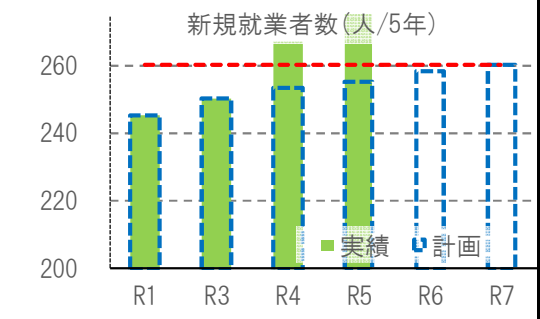
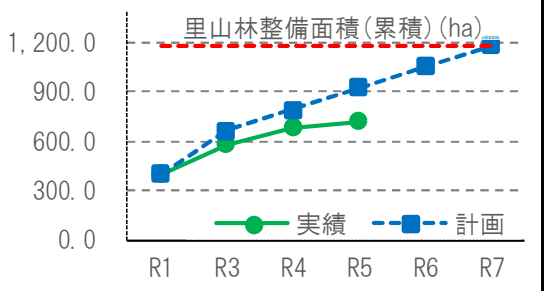
重点施策２　森林の公益的機能の高度発揮　～“災害に強い森づくり”の推進～

	指標	現状値 R1(2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率 R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	目標値 R7(2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
8	造林面積　(ha/年)	408	387	431	528			700	
			500	575	650	680	700		
			77% △	75% △	81% ○				
	・年々、増加傾向にあるものの、目標には届かなかった。 ・エリートツリーの導入や、ドローンによる苗木運搬などによる作業の効率化で、主伐（皆伐）地での造林を確実に進めていく。								
9	間伐面積　(ha/年)	3, 254	3, 357	3, 177	3, 182			3, 500	
			3, 500	3, 500	3, 500	3, 500	3, 500		
			96% ○	91% ○	91% ○				
	・目標達成には至らなかったものの、3, 000haを超える一定の成果が維持されている。 ・皆伐・再造林が難しい獣害が深刻な地域を中心に、従来の搬出間伐を実施していく。								
10	山地災害危険地区の着手箇所数（累計）　(箇所)	－	29	58	83			125	
			25	50	75	100	125		
			116% ◎	116% ◎	111% ◎				
	国の防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策に基づき、予防的な治山事業を着実に執行したことにより、実績が目標を上回った。								

2　各指標の状況

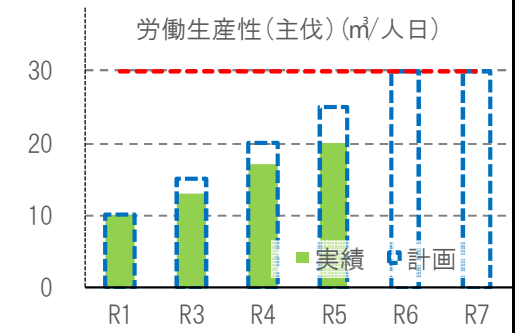
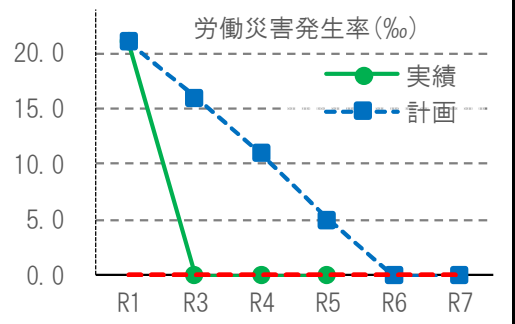
	指標	現状値 R1(2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率 R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	目標値 R7(2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
11	保安林面積（民有林）（ha）	80,510	81,718	82,180	82,684			83,500	
			81,380	81,760	82,250	82,810	83,500		
			100% ◎	101% ◎	101% ◎				
	大規模な保安林指定が進んだため、実績が目標より増加した。								
12	森林組合による地籍調査面積（累計）（ha）	278	2,304	2,983	3,370			3,700	
			1,420	1,990	2,560	3,130	3,700		
			162% ◎	150% ◎	132% ◎				
	航空レーザ計測等リモートセンシングデータを活用した地籍調査により、山間部の境界確認等の効率化、迅速化が図られたことで実績が目標より上回った。								
13	野生獣による林業被害額（億円/年）	1.35	1.70	1.81	2.30			1.10	
			1.27	1.23	1.18	1.14	1.10		
			▲	▲	▲				
	・前年度と比べ、被害面積は横ばいであったものの、被害額は増加した。 ・植栽後の苗木などに加え、特に利用期を迎えた市場価値の高い樹木がシカ等の食害にあった。								

重点施策３　森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～

	指標	現状値 R1(2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率 R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	目標値 R7(2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
14	新規就業者数　（人/5年）	245	250	267	278			260	
			250	253	255	258	260		
			100% ◎	106% ◎	109% ◎				
	高校生を対象とした集団説明会や県内外での就業セミナー等、担い手確保のために林業の魅力をPRした結果、林業への関心が高まり、就業者数が増加した。								
15	里山林整備面積（第2期県民税事業の新規累計）　（ha）	403	584	683	723			1,185	
			664	794	925	1,055	1,185		
			88% ○	86% ○	78% △				
	事業主体である団体の高齢化や後継者不足の影響により、新たに里山林を整備する実績が目標より下回った。								

2　各指標の状況

共通施策　　未来技術を活用した産業への進化　～“スマート林業”の推進～

	指標	現状値 R1(2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率 R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	目標値 R7(2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
16	労働生産性（主伐）※モデル地区内における実績 (㎥/人日)	10 (H30(2018))	13 / 15 / 87% ○	17 / 20 / 85% ○	20 / 25 / 80% ○	30	30	30	
	・現状値から微増であるが、着実に効率化している。 ・各種森林施業の技術向上を図るとともに、未来技術を搭載した機械による検証を進め、効果の高い技術を実装することで、生産性の向上を図っていく。								
17	労働災害発生率※モデル地区内における実績 (‰)	21	0 / 16 / 420% ◎	0 / 11 / 320% ◎	0 / 5 / 183% ◎	0	0	0	
	・本検証の現場では、未来技術の導入により、従来の人力作業から機械による作業に転換されたことで作業の安全性が向上しており、労働災害が発生していない。								

３　取組の方向性

施策名	取組の方向性
重点施策１ 林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業”の実現～	**【素材生産量の増大及び出口対策の推進】** ➢素材生産の体制強化や非住宅等建築物の木造・木質化、とちぎ材横架材利用促進、大径材等の用途開発、首都圏・海外など販路拡大等の継続 **【担い手の確保・労働生産性の向上】** ➢R6開校の林業大学校を中核とした新たな林業人材の確保・育成 ➢ICT等の先端技術を活用したスマート林業の推進による作業の効率化・生産性の向上 **【きのこ生産量の増大】** ➢国産しいたけ菌床等の確実な確保など、しいたけの生産体制強化の推進
重点施策２ 森林の公益的機能の高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～	**【担い手の確保・労働生産性の向上】** ➢　同　上 **【獣害対策の推進】** ➢市町等が行う有害捕獲や個体数調整の取組への支援 ➢造林地における忌避剤の散布や獣害防止チューブの設置、 　壮齢木への獣害防止ネット巻き等への支援　など
重点施策３ 森林・林業・木材産業を支える 地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	**【林業の魅力向上】** ➢林業の認知度向上及び担い手確保に向けた情報発信の継続 **【里山林整備の推進】** ➢森づくり活動団体の新たな担い手育成の推進
共通施策 未来技術を活用した産業への進化 ～”スマート林業”の推進～	**【未来技術の導入・検証の推進】** ➢生産工程における自動化技術等の試験的導入と効果の検証を継続実施 ➢労働生産性の向上など効果が見込まれる技術については順次実装に向けた取組を推進

3　取組の方向性

施　策	NO	指　標	R５評価	説　明	取組の方向性
重点施策１ 林業・木材産業の 産業力強化 ～“稼げる林業”の実現”～	1	林業産出額	◎	ウッドショック（Ｒ３年春～Ｒ４年末）や為替変動（円安）等の影響で製材等の輸入量が減少したことで、国産材への代替需要が生じたことから、製材用素材等の価格上昇が続き、産出額は増加した。	**【素材生産量及び出口対策の推進】** ➢素材生産の体制強化や非住宅等建築物の木造・木質化、とちぎ材横架材利用促進、大径材等の用途開発、首都圏・海外など販路拡大等の継続 **【担い手の確保・労働生産性の向上】** ➢R6開校の林業大学校を中核とした新たな林業人材の確保・育成 ➢ICT等の先端技術を活用したスマート林業の推進による作業の効率化・生産性の向上 **【きのこ生産量の増大】** ➢国産しいたけ菌床等の確実な確保など、しいたけの生産体制強化の推進
	2	素材生産量	○	・前年度より改善したものの、目標には届かなかった。 ・循環型林業を確立させるため、主伐（皆伐）と造林（植栽・下刈等）を一体的に進めるとともに、実効性の高い森林経営計画により素材生産量を確保していく。	
	3	主伐面積	△	・前年度より改善したものの、目標には届かなかった。 ・皆伐へのモデル的なシフト（H26～）から、主伐面積は年々増加し、約500haで推移している。 　ウッドショック時の外材供給体制への不安が残る今が、国産材の利用率を上げていく最大のチャンスと捉え、主伐（皆伐）による森林資源の循環利用を進めていく。	
	4	協定取引量	◎	ウッドショック等の今までに類をみない多大な影響を経験したことから、リスクマネジメントとして、特に川上・川中の間で、協力体制の強化が図られ、協定取引量が増加した。	
	5	製材品出荷量	○	・前年度より改善したものの、目標には届かなかった。 ・本県の製材品生産のポテンシャルとしては余力を残しているため、原材料となる素材丸太の供給体制を強化していくことが重要である。	
	6	人工乾燥材出荷量	○	・目標はほぼ達成している。 ・製材品の生産が回復し、乾燥材生産の割合が増加したことに伴い、本県の特徴である人工乾燥材の生産・出荷も連動し増加した。	
	7	きのこ生産量	△	食品表示基準の改正により、国産として扱われなくなったしいたけ生産者の中に一部、生産を休止する者が現れたことから、生産量が減少した。	
重点施策２ 森林の公益的機能の 高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～	8	造林面積	○	・年々、増加傾向にあるものの、目標には届かなかった。 ・エリートツリーの導入や、ドローンによる苗木運搬などによる作業の効率化で、主伐（皆伐）地での造林を確実に進めていく。	**【担い手の確保・労働生産性の向上】** ➢　同　上 **【獣害対策の推進】** ➢市町等が行う有害捕獲や個体数調整の取組への支援 ➢造林地における忌避剤の散布や獣害防止チューブの設置、 　壮齢木への獣害防止ネット巻き等への支援など
	9	間伐面積	○	・目標達成には至らなかったものの、3,000haを超える一定の成果が維持されている。 ・皆伐・再造林が難しい獣害が深刻な地域を中心に、従来の搬出間伐を実施していく。	
	10	山地災害危険地区の着手箇所数	◎	国の防災・減災、国土強靱化のための５か年加速化対策に基づき、予防的な治山事業を着実に執行したことにより、実績が目標を上回った。	
	11	保安林面積	◎	大規模な保安林指定が進んだため、面積が目標より増加した。	
	12	森林組合による地籍調査面積	◎	航空レーザ計測等リモートセンシングデータを活用した地籍調査により、山間部の境界確認等の効率化、迅速化が図られたことで実績が目標より上回った。	
	13	野生獣による林業被害額	▲	・前年度と比べ、被害面積は横ばいであったものの、被害額は増加した。 ・植栽後の苗木などに加え、特に利用期を迎えた市場価値の高い樹木がシカ等の食害にあった。	
重点施策３ 森林･林業･木材産業を 支える地域･人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	14	新規就業者数	◎	高校生を対象とした集団説明会や県内外での就業セミナー等、担い手確保のために林業の魅力をPRした結果、林業への関心が高まり、就業者数が増加した。	**【林業の魅力向上】** ➢林業の認知度向上及び担い手確保に向けた情報発信の継続 **【里山林整備の推進】** ➢森づくり活動団体の新たな担い手育成の推進
	15	里山林整備面積	△	事業主体である団体の高齢化や後継者不足の影響により、新たに里山林を整備する実績が目標より下回った。	
共通施策 未来技術を活用した 産業への進化 ～“スマート林業”の推進～	16	労働生産性	○	・現状値から微増であるが、着実に効率化している。 ・各種森林施業の技術向上を図るとともに、未来技術を搭載した機械による検証を進め、効果の高い技術を実装することで、生産性の向上を図っていく。	**【未来技術の導入・検証の推進】** ➢生産工程における自動化技術等の試験的導入と効果の検証を継続実施 ➢労働生産性の向上など効果が見込まれる技術については順次実装に向けた取組を推進
	17	労働災害発生率	◎	・本検証の現場では、未来技術の導入により、従来の人力作業から機械による作業に転換されたことで作業の安全性が向上しており、労働災害が発生していない。	